

2009年度ばちんこ依存問題電話相談事業報告書

RSN電話相談件数が開設以来最高に



パチンコ依存問題解決の支援を行うリカバリーサポート・ネットワーク(RSN)が2009年度の電話相談内容の報告書をまとめた。それによると、09年度の電話相談は全国で1305件(前年度比118件増)。電話相談を開始した06年度以来、過去最高となった。

電話相談をかけたきた人(相談者)の内訳をみると、問題を持つ本人からの相談が825件と圧倒的に多い。本人の比率は年々増加傾向にあり、その性別は男性女性でほぼ半々。ただし対象者(問題を抱えている本人)の性別では、男性が約7割と過半数を超えた。これは遊技参加者の男女比に近似している。年代別で見ると、相談者、対象者とも30代が多い。

聞いたところ、男女ともに「最近(1~2年)」と答えた人が最も多かった(男性36%、女性30%)。「問題化していない」と答えた人でも、「今のところ問題化していないが、このままでは将来が不安」と答えている。

パチンコ・パチスロの遊技を開始した年齢を男女別に比較したところ、男性は10代が43%(252件)、20代が42%(238件)と、20代までに遊技を始めた人が8割を超えた。一方女性には20代が最も多かったが、30~50代まで幅広い年齢層で遊技を開始している。女性は、「子育てがひと段落してから」「夫が定年退職し、一緒に通い始めた」などの回答が多い。

相談者はどのような経路でRSNの相談窓口を知ったのか。最も多かったのは「ホール内ポスター」(662件)。問題を抱えている本人の相談経路においてもホール内ポスターが最も多かった。全日遊連が定期的に組合員ホールに配布している啓蒙ポスターが、大きな役割を果たしているよ

うだ。

相談内容では「やめる方法、やめさせる方法」がトップだった。多くの相談者が借金をしながら、その返済方法よりも、パチンコをやめる方法を相談している。次に多かったのが「家族の接し方」だ。家族が問題を持つ本人に対してどう接したらいいかわからないといった内容が主なもの。このほか、「今までの負けを取り返すにはどうしたらいいか」などの相談もあった。

1か月に使用する遊技費用は、5万円未満、5~10万円がそれぞれ48件でトップ。使う金額によって相談の内容も変わる。5万円未満の人からは「家計から1~2万使ってしまう穴埋めできない」「1か月3万円の小遣いをすべてパチンコに使ってしまう。できれば他のことに使いたい」といった内容の相談が多い。対して、10万円以上を使うと答えた人からは「お金を持つと、あるだけ使ってしまう」「負けを取り返したい」などの相談が多かった。